

群 教 セ	G10 - 01
	平 29. 265 集
	道徳

多様な考えを基に道徳的価値を理解し、 自己を高めようとする児童の育成

—ネームカードの活用による考えの視覚化を通して—

特別研修員 小沼 謙二

I 研究テーマ設定の理由

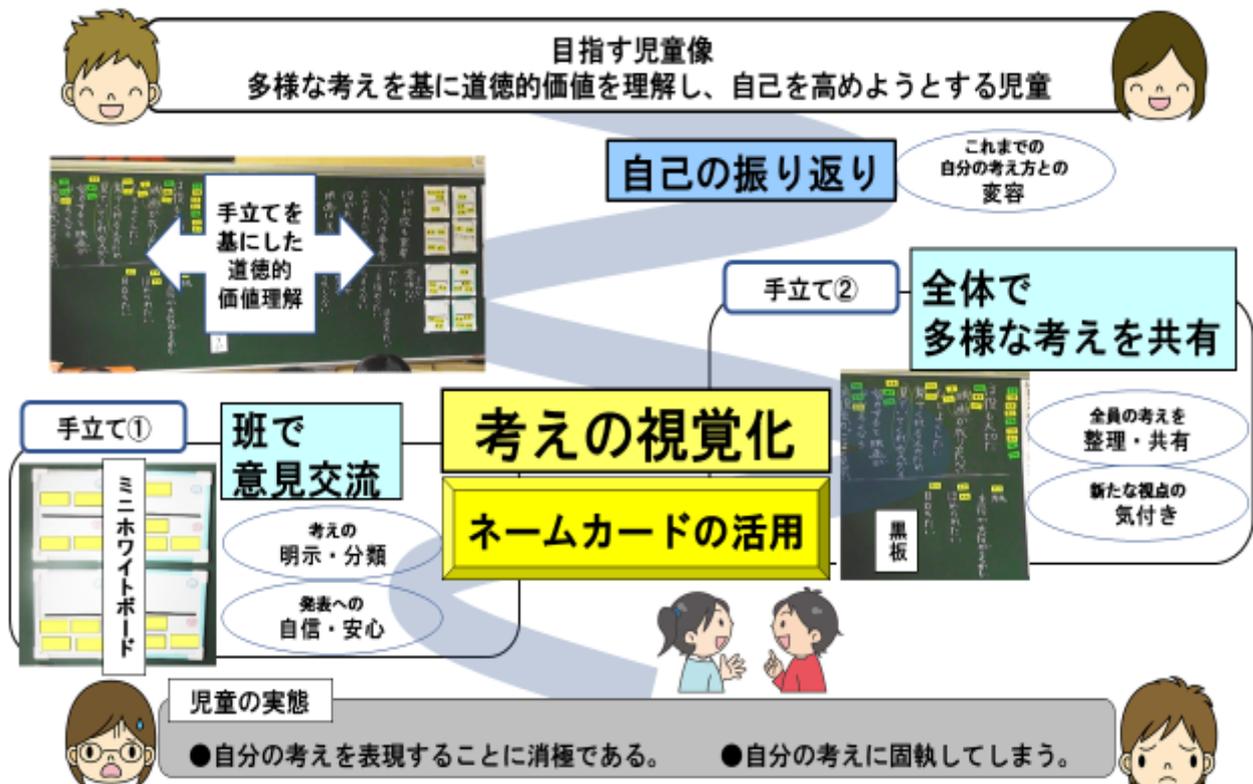
はばたく群馬の指導プランには、豊かな心を育成するために「向上する心」「やりぬく心」「大切にしている心」の三つについて、道徳の時間を中心として伸ばしていくことを重視している。そして、そのような心を伸ばすためには、自己を見つめながら他者と協力し、自分自身や学校生活をより良いものにしていこうとする力を必要としている。

本学級の児童は、日常のクラスの諸活動に対して真面目に取り組むことができる。また、林間学校や運動会でも友達と協力して取り組むなど、全体的に落ち着いて行動できる。一方で、決められた仕事は行いが、失敗に対する不安や恥ずかしさから、自分の考えを表現することに対して消極的になったり、自分の考えに固執してしまい、友達の考えを受け入れることができなかつたりする児童もいる。

このような児童に対して、はばたく群馬の指導プランにあるような「自分のよさに気付き、それを伸ばしていく」という態度を育てるためには、自他の考えを主張して受け入れ、お互いのよさを認め合える環境が必要である。そこで、道徳の時間において、自他の考えをネームカードで視覚化する活動を考えた。このネームカードを基にして班や全体での意見交流を行うことで、多様な考えに気付き、道徳的価値を理解する中で自己を高めていこうとする児童を育てることができると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

研究テーマの「多様な考えを基に道徳的価値を理解」するためには、自分の考えと他者の考えとの共通点や相違点を知ることが必要であると考えた。そこで、ネームカードを活用し、自分の考えを明示・分類したり、全員の考えを整理・共有したりして視覚化することが効果的であると考え、以下の二つの手立てを考えた。

手立て① 班で意見交流する場面でのネームカードの活用（明示・分類）

手立て② 全体で多様な考えを共有する場面でのネームカードの活用（整理・共有）

手立て①について

登場人物の行動や葛藤についてワークシートに自分の考えを記入し、班で意見交流をする場面でネームカードを活用する。実施手順は、以下のとおりである。

- ・班ごとにミニホワイトボードを用意し、それぞれの考えを「プラスの考え」「マイナスの考え」に分け、ネームカードを用いて意思表示をする。
- ・ネームカードを置いた理由について班ごとに意見交流する。
- ・班の意見交流後、各班のミニホワイトボードを黒板に掲示し、全員の考えを確認する。

これらの活動を行うことで、自分の考えを視覚的に明らかに（明示）することができる。また、班で意見交流する中で、ネームカードを置いた理由を聞いたり、他者の考えを知って自分の考えを深めたりすることもできる。さらに、各班のミニホワイトボードを黒板に掲示することで、他の班の考えについても視覚的に捉えることができ、全体での意見交流につなげることができる。

手立て②について

中心発問について自分の考えをワークシートに記入し、全体で多様な考えを共有する場面でネームカードを活用する。実施手順は、以下のとおりである。

- ・児童が発表した考えと同じ考えのときに、教師がネームカードを黒板に貼る。
- ・ネームカードが貼られていない児童については、指名をすることで全員の考えを確認する。
- ・全員の考えをネームカードで整理し、自他の考えを比較しながら共有する。
- ・ネームカードが貼られた場所に応じて意図的指名を行い、全体での意見交流につなげる。

これらの活動を行うことで、自分の考えと他者の考えを比較しながら意見を共有し、共通点や相違点を確認することができる。また、ネームカードが貼られた人数を確認しながら、少数意見についてもその理由を全体で考えていくことで、多様な考えがあることを捉えることができる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て①においてネームカードを活用したことで、自分の考えを視覚的に明らかに（明示）でき、班で分類しながら意見交流をするときに自分の言葉で表現することが容易になった。意見をただ交換するだけでなく、「なぜ、そう思うのか。」「自分はこう考えている。」など、話し合いが活発になる様子が見られた。
- 手立て①や②においてネームカードを活用することで、考えが整理され、全員で共有することで多様な考えに気付くことができた。
- ネームカードを活用し、自他の考えを比較させたことで、これまでの考え方を見つめ直すことができ、終末での自己を振り返る場面では、自己を高めようとする意見も見られるようになった。

2 課題

- ネームカードの活用については、二項対立の考え方のときだけでなく、学習内容に合わせた使用方法を工夫していく必要がある。また、1回や2回の活用する授業構成を考えていく必要もある。
- ネームカードは自他の考えを視覚化するための道具であり、それを使用することだけが目的とならないように、活用場面を工夫していく必要がある。

実践例

- 1 主題名 自分ができることを 内容項目C-(16)よりよい学校生活・集団生活の充実
資料名 「どこかでだれかが見ていてくれる—福本清三—」(出展 文溪堂「5年生の道徳」)

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目C-(16)「よりよい学校生活・集団生活の充実」を基に設定されたものである。人は家庭や学校など、集団生活で周りの人々と関わる中で自分の役割に取り組んでいる。より良い生活にしていくためには、自分の役割を自覚し、周りの人々の役に立つ喜びを感じ、責任を持って最後までやり抜こうとする力を育むことが大切である。そして、互いに協力し、支え合っていくことで豊かな社会を形成していくことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、学校生活において前向きに取り組もうと頑張ることのできる児童が多い。しかし、係や給食当番、清掃などについては、役割意識が薄れて仕事を忘れてたり、いいかげんになったりする児童も見られる。また、苦手なことや面倒なことに対しても、後回しにしたり、友達に任せたりするなど、自分のやるべきことから目を背けてしまう児童も見られる。このような実態からも、目立つ・目立たない、得意・不得意に限らず、自分の役割を自覚して、その責任を一つ一つ堅実に果たすことが集団生活の充実につながっていくということを理解させたい。

(3) 資料観

本資料は、時代劇で「斬られ役」という主役ではない端役を長年続けてきた福本清三さんが、大俳優の萬屋錦之介さんに仕事を認められ、そこから自分の仕事に誇りを持ち、更に自分の演技に磨きをかけ、最後にはハリウッド映画に出演して世界中にその名を知られるようになる、という話である。福本さんが長年にわたり端役として演じ続けてきた気持ちを考えながら、「どこかでだれかが見ていてくれるのかな。」という資料中のつぶやきを通して、自分が与えられた役割を果たすことに対する責任を感じさせるとともに、集団生活への充実へとつなげさせたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、福本さんが長年斬られ役を演じてきたことへの気持ちを考える場面と、目立たない役でも斬られ方を工夫する福本さんの気持ちを考える場面においてネームカードを使用した。この二つの場面で考えの違いをネームカードによって視覚化することで、本時の道徳的価値に迫るようにした。

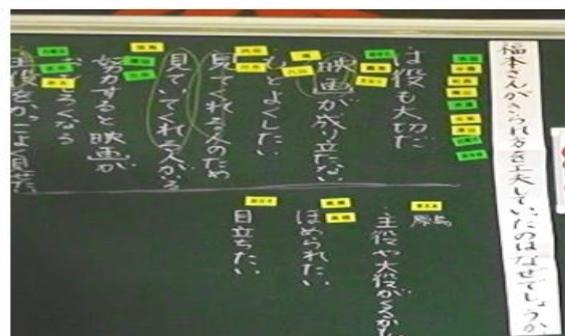
斬られ役を長年演じてきた福本さんの気持ちを考えるそれぞれの場面で、ネームカードを使用する。

手立て① 班で意見交流する場面での活用

ワークシートに書いた考えを基にして、班で意見交流をする。そのとき、班ごとにミニホワイトボードを使用し、ネームカードを使って一人一人の考えを明示して分類する。上段は「プラスの意見」、下段は「マイナスの意見」として、グループによって考えの共通点や相違点が視覚化できるようにする。

手立て② 全体で多様な考えを共有する場面での活用

中心発問で考えた意見を発表する場面で、ネームカードを黒板に貼る。そのとき、同意見の場合は、教師が同じ所に貼って全体の考えを共有する。手立て①で使用したネームカードと手立て②で使用したネームカードを基にし、斬られ役を演じ続ける福本さんの気持ちに迫る中で道徳的価値の理解につなげていく。



4 授業の実際

「導入」では、事前アンケートを基に、ねらいとする価値への方向付けをするために「役割」について自分やクラスの実態について確認した。また、資料で登場する福本さんが出演している映像を流し、福本さんの役割について触れ、これから行う授業への関心を高めるようにした。

「展開前段」では、範読後、福本さんの人物像について確認し、「もし、自分が斬られ役ばかりやるとしたらどんな気持ちですか」と発問した。斬られ役を長年続ける気持ちについて、自分自身に置き換えて考えさせた。

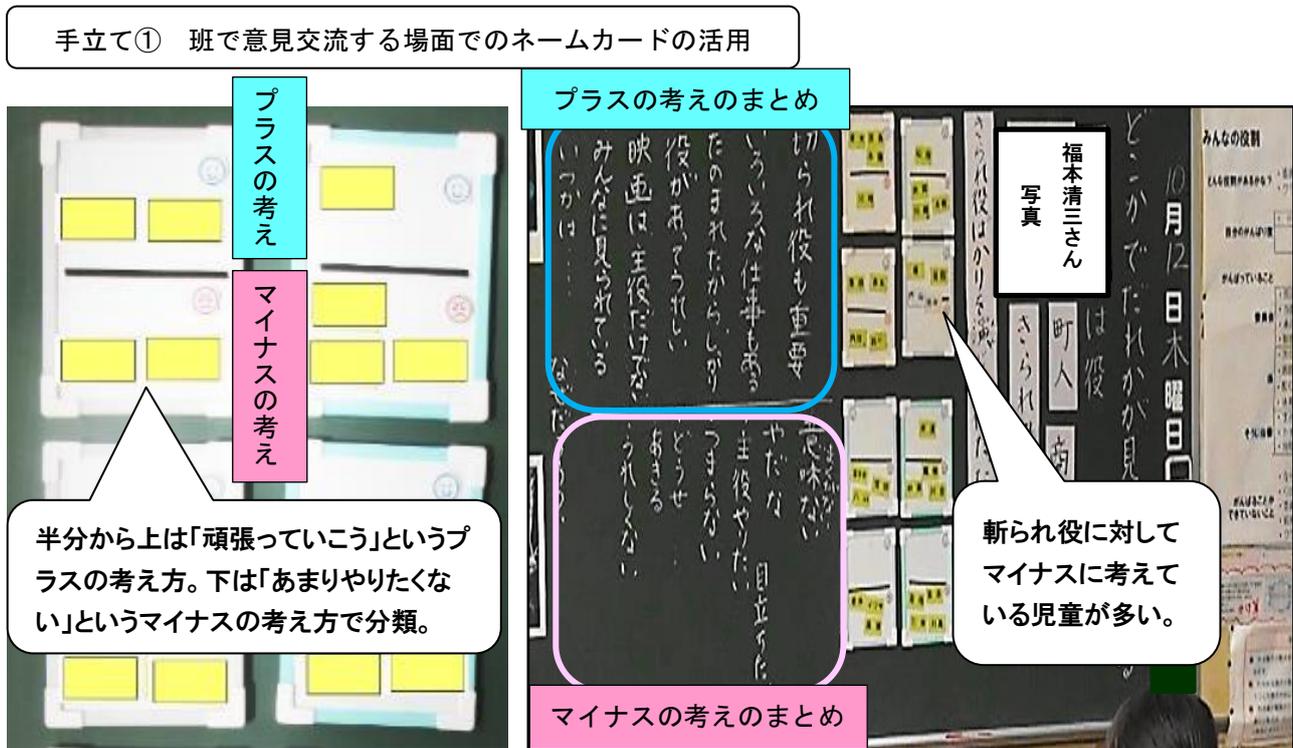
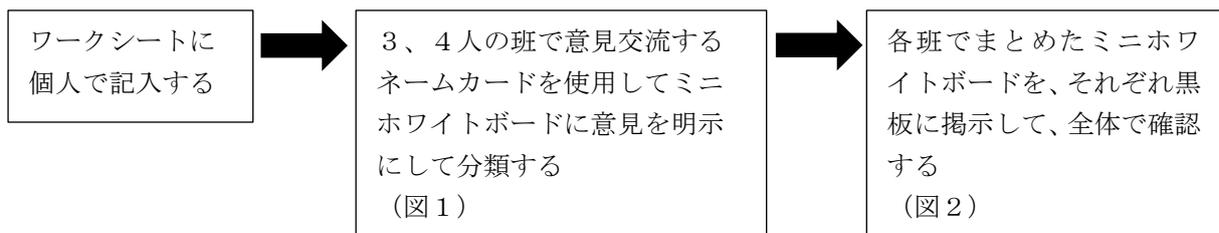


図1 班ごとに分類したネームカード

図2 黒板に掲示し、全体で確認



ミニホワイトボードを掲示して全体で意見を確認すると、「斬られ役も重要」「頼まれたからしっかりやりたい」といったプラスの考え方が出てきたが、「やりたくない」「つまらない」「斬られ役より主役をやりたい」など、斬られ役に対してマイナスに考えている児童の方がクラスに多いと分かった。班だけでなく、全体で確認すると、他の班はどんな分類になったのだろうと思いを巡らして、興味を持って取り組む様子が見られた。

「展開後段」では、前段で斬られ役に対してマイナスの考えを持つ児童が多かったことを受け、福本さんが長年にわたり斬られ役をやり続けてきた気持ちについて考えることで道徳的価値の理解につなげていった。さらに、大俳優の萬屋錦之介さんに演技を褒められたことをきっかけにすることで、福本さんの気持ちの変化が見られた場面を取り上げ、中心発問を「福本さんが斬られる役を工夫していったのはなぜでしょうか」として、自分の考えをワークシートにまとめさせた。

手立て② 全体で多様な考えを共有する場面でのネームカードの活用

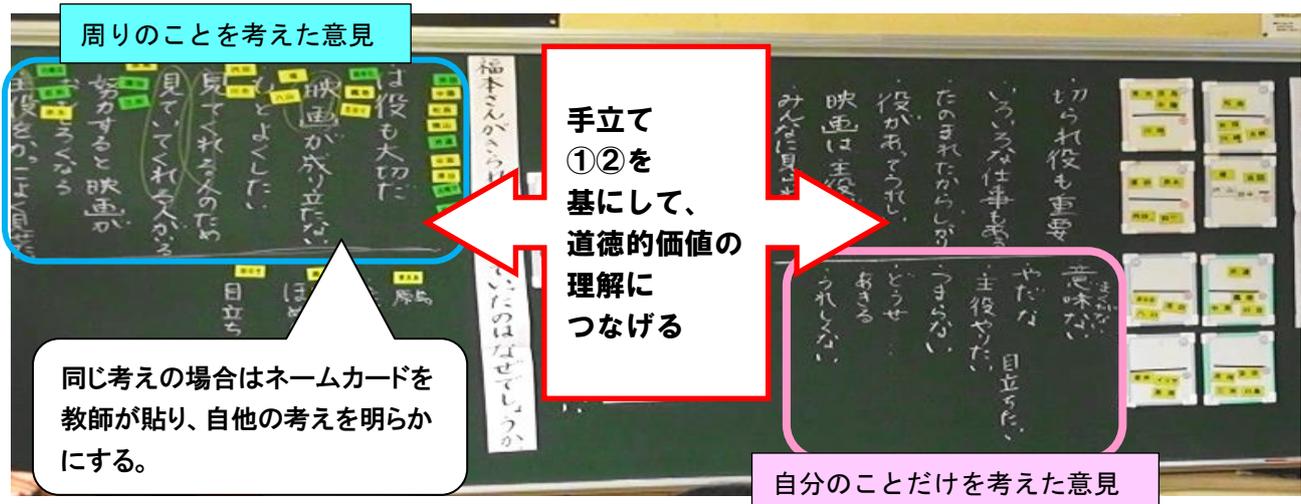
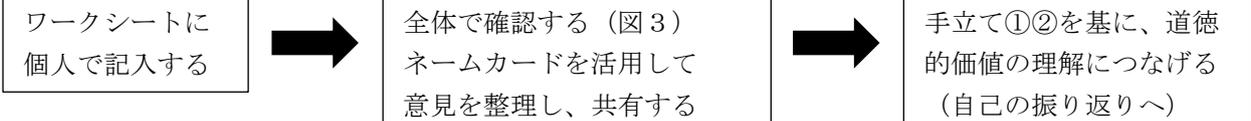


図3 黒板で多様な考えを整理し、共有



ネームカードを使用して全体の意見を整理・共有した後、展開前段で出された「斬られ役に対する自分の考え方」と、展開後段の「福本さんが斬られ役を演じ続けてきた考え方」との違いについて考えた。

展開前段では斬られ役に対してマイナスの考えを書いた児童も、展開後段での中心発問で「映画のために」「主役のために」「見ている人のために」といったプラスの考えになった児童のネームカードが見られ、考えの変容を捉えられた。このように意見を整理し、共有したことで「やりたくない、つまらない、主役になりたい」という自分のことだけを考えた意見と、「映画のためには端役も大切だ、主役を格好よくみせたい」といった、周りのことを考えた意見などの多様な意見があることに気付くことができた。それらを基にして、自分の役割を果たすことは、より良い集団生活を形成していくうえで大切だという道徳的価値の理解につなげていくことができた。

「終末」では、導入で取り上げた事前アンケートをもう一度確認し、これまでどのような気持ちで自分の役割に取り組んできたか、これからどのような気持ちで取り組んでいきたいかを感想にまとめた。自分の役割に対する責任や友達や学校など周りのことについてなどを考え、振り返りの感想を書く児童も見られた。

5 考察

手立て①については、自分の考えを明らかにする点で効果的であった。また、班で意見交流をしてネームカードを分類する際、友達の考えに関心を持って取り組むことができ、自分と同じ考えがあることで自信につながっていた。今回の資料では、ネームカードを分類すると、斬られ役に対して「やりたくない」「いやだな」という意見が多く出たので、登場人物である福本さんが、長年斬られ役をやり続けてきた理由を考えていくことが価値の理解につながり、興味を持って学習を進めていくことになった。

手立て②については、中心発問に対してネームカードを用いたが、同じ考えの場合はネームカードでまとめ、自他の考えを整理・共有できたことは効果的であった。また、手立て①で活用したネームカードと手立て②で活用したネームカードを比較し、考えの違いが分かるように児童のネームカードを裏返すことで、「自分のため」という自己中心的な考え方ではなく、「周りのため」という相手の気持ちを考えて行動している考え方にも気付くことができた。

ネームカードの活用については、児童の考えを視覚化する点においては効果的だったが、整理するときには時間がかかってしまい、振り返りの活動の時間が少なくなってしまった。ネームカードの活用するためには、場面を精選しながら、発問等も含めて、更に授業構成を工夫していく必要がある。